

vol. 2194

【発行】大分県高等学校教職員組合教宣部 大分市大字下郡496-38 大分県教育会館
TEL / (097) 556-2838 FAX / (097) 556-8998 MAIL / ohtwu@view.ocn.ne.jp

大分県高教組情報

【発行者】横道 信哉 【印刷】佐伯印刷(株) 【売価】30円(組合員の購読料は組合費の中に含んで徴収しています)



今号の掲載内容 (掲載順)

- 日々向き合う子どもたちの姿をスタートに、つどい、語ろう、明日の教育を！
 - ・ 大分高教組 第66次県教研開催
 - ・ 特別分科会「佐伯戦跡フィールドワーク」
- 参議院選挙立候補予定者「みずおか俊一」来県

日々向き合う子どもたちの姿をスタートに、つどい、語ろう、明日の教育を！

大分高教組 第66次県教研開催

とき：11月10日(土)、11日(日) ところ：大分南高校



県教組第68次 高教組第66次 教育研究大分県集会

平和を守り真実をつらぬく民主教育の確立
子どもを中心にすえた教育改革と教育の自由の確立

- すべての子どもを主体とした教育を
- 民主的私学校運営の確立と教育研究の自由を
- 教育を保護者・地域のみんなとともに
- 平和と民主主義 人権をめざす教育 子どもの人権尊重を基本に

今年度の県教研は大分南高校を会場として、県教組、高教組の組合員の参加で盛大に開催されました。

初日の全体会では、主催者を代表して岡部勝也県教組執行委員長が挨拶を行った後、佐藤寛人連合大会長、佐藤義朗大分県平和運動センター議長、原田隆司大分県議会議員から祝辞をいただきました。

続いて、望月衣塑子さん(東京新聞社会部記者)から「報道の現場から、平和・人権を考える」と題した記念講演が行われました。

今年度は、1日目の午後に教科別、2日目に問題別分科会を開催し、各支部・分会、単組・専門部から持ち寄られたレポートをもとに、私たちの日頃の教育実践についての報告がなされ、活発な討論が繰り広げられました。また、12月16日(日)には、県教研当日に開催できなかった特別分科会「佐伯戦跡フィールドワーク」を実施しました。



教科・問題別分科会

第1分科会

日本語教育

レポートタイトル	リポーター名	分会名
夜のスープカレー	福田晃一郎	中津東定時制
国語科の教員が家庭科を指導する日	佐藤 慈乃	別府支援石垣原
「いいのかなぁ？ビジュアル仲介…。」	新川 恭慈	由 布
右傾化する教材	後藤 恵美	佐 伯 豊 南

「子どもの意欲と私たちの注意力」

江藤好隆 (大分西分会)

私たちが扱う教材は、果たして子どもたちにとって適切なものなのか？例えば小テスト等で範囲とする漢字帳には軍用意的な文章やジェンダー感覚の固定的過ぎるものが意外に多い。私たち教職員はこの現実を受け止め、慎重な取り扱いに努めなければなりません。また、私たちの目標の1つは意欲を引き出す授業づくりです。文章の読解力養成は厳しくても…映画を観る活動から始める国語力向上策もあります。私たちは、子どもたちが意欲を生む新しい手法を探し続けなければなりません。

第2分科会

外国語教育

レポートタイトル	リポーター名	分会名
37年間高校で英語を教えたこと-これからの英語教育は？-	小松敬一郎	別府 鶴見 丘
TESOL 取得を通して学んだ英語教授法	小野 淳貴	玖 珠 美 山
英語の勉強法について	高橋 憲一	竹 田
英語の活動・寄せ集め	山野 寿美	中 津 東

「良い勉強になりました。やっぱり集まるのは大切！」

高山正雄 (大分雄城台分会)

15人の参加者で外国語分科会は開かれました。今年で退職を迎える小松さんのレポートでは、現在のAccuracy(正確さ)軽視の英語教育のあり方について語られました。小野さんはTESOL(Teaching English to Speakers of Other Language: 英語ネイティブではない方に英語を教えるための資格)について、高橋さんも英語教授法について熱く語って下さいました。レポートのみではありますが、山野さんも英語活動の実践を報告して下さいました。私だけでなく、久しぶりに参加した人が多く、英語教員にとって大変ためになる分科会でした。

第3分科会

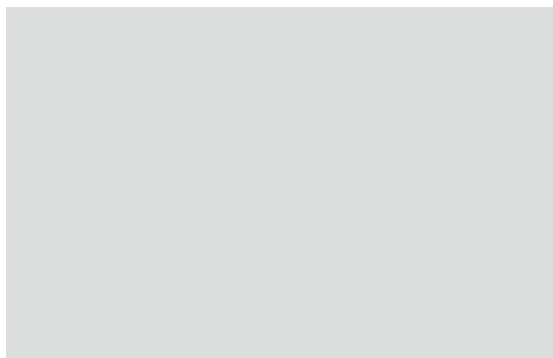
社会科教育

レポートタイトル	リポーター名	分会名
ジグソー法で暗記しない世界史	田尻 洋佑	別 府 翔 青
文化研究の成果を活用した世界史授業の試みⅡ	西 裕一郎	大 分 豊 府
歴史的思考力を育成する試験問題の作成	安部 統己	玖 珠 美 山
仮想現実問題で歴史的思考力を培う世界史教育	佐藤 邦彦	白 杵

「思考力とは」

大野真二 (別府鶴見丘分会)

レポート4本、他教科からの参加者もあり、計10人での分科会となりました。レポートすべてが世界史関係であったことから、参加者もほとんどが世界史の教員でした。



歴史科目における子どもたちの「思考力」について、各リポートを通して討議をしました。「知識偏重」に対しての「思考力」という問いかけですが、やはり、知識は知識として把握させた上での「思考力」が求められていることが確認できました。

第4分科会

数学教育

リポートタイトル	リポーター名	分会名
余弦定理の成り立ちの授業を何とかしたい件について	沼田 庄司	中 津 東
図書館を利用した数学研究発表会	松本 幸夫	別 府 翔 青
創作問題にチャレンジ	宮崎 浩幸	大 分 舞 鶴
数学嫌いを減らすために	田中 功一	津 久 見



「少ないながらも楽しい数学分科会」

宮崎 浩幸 (大分舞鶴分会)

宮崎さんのレポートは、ピタゴラス数（三平方の定理 $a^2 + b^2 = c^2$ を成り立たせる自然数の組）についての考察でした。「ピタゴラス数は意外と簡単に見つけれ、多くの性質が隠されている。」「合同式を使うと証明が楽にできる。」などが感じられ、純粋に数学を楽しむことができました。松本さんのレポートは、図書館を活用して数学の研究発表をする活動の紹介でした。子どもたちが積極的にのびのびと活動している様子が伺えました。子どもたちによる研究発表の活動は教員が大変だと思いがありますが、この方法ならできそうだなと思える発表で、やってみようかなという気持ちになりました。沼田さんと田中さんはリポートのみでしたが、日頃から「子どもたちに分かりやすく、印象に残る授業」を工夫している様子のわかるものでした。参加者5人の分科会でしたが。最後に日頃の学校での様子などを出し合い和気藹々と会を終わることができました。

第5分科会

理科教育

第17分科会

環境教育

リポートタイトル	リポーター名	分会名
物理での色の学習	堀田 秀俊	安 心 院
授業へのICT機器の活用の工夫	小野 紀昭	由 布
FCIをやってみました。	森田 年洋	玖 珠 美 山
キケンな竹本	竹本 哲也	日 田 林 工



「理科は楽しく研究しましょう」

藤原 純郎 (日田定時制分会)

参加者8人にリポート4本のこじんまりとした分科会。集まったメンバーも顔見知りが多く、和やかな雰囲気ですスタートしました。ICT機器を利用した授業展開や資格取得のための特別指導、FCI (Force Concept Inventory: アメリカでの物理学研究に基づいた生徒・学生の理解度調査のための設問) 登録とプレテスト実施等、内容の濃い発表が行われました。すべてのリポートについて活発な質疑応答や意見交換が行われ、日頃の授業をがんばらねば、という気持ちになりました。中でも「物理における『色』の学習」においては、教材開発や授業展開に関する討論に留まらず、色覚多様性に関わる人権教育的な内容にまで話が及びました。やはり、力のあるリポーターの報告を聞くのは楽しい。「よし、自分も」と元気の出した分科会でした。

第6分科会

芸術教育

レポートタイトル	リポーター名	分会名
アニソンについて	稲田 雅史	大分東

「芸術教育の役割について」

稲田 雅史(大分東)

芸術教育の分科会は、音楽1名、美術2名で行いました。形式にとらわれずに自由に話をすることにより、とても良い話ことができました。芸術教育の役割はたくさんありますが、特に卒業後の姿をイメージし、社会に出た後に役立つ教育を！という考えで一致しました。そして、そのキーワードとして現代アートがあるという話で盛り上がりました。他教科とのコラボレーションにより効果があることも共通認識として持つことができました。



第10分科会

職業教育

レポートタイトル	リポーター名	分会名
大工生のもづくり教育を通して	石田 義徳	大分工業
福祉教育～専門職育成について～	後藤 遥	佐伯豊南

「形になるもの、ならないもの」

後藤 遥(佐伯豊南分会)

石田さんのレポートは、工業科3年生の課題研究について、ポン菓子製造機を製作するにあたっての設計、組み立て、安全性の確認、実演、研究発表会での問題点等、子どもたちと試行錯誤しながらとりくまれた実践の発表でした。後藤の発表は、福祉人材の確保に関する課題と介護実習に関する地域の福祉事業所との連携についてでした。ものづくりと人材育成について、形になる成果だけでとらえるのではなく、ならないものこそ大切な経験、価値あるものだと気付かされた時間でした。



第11分科会

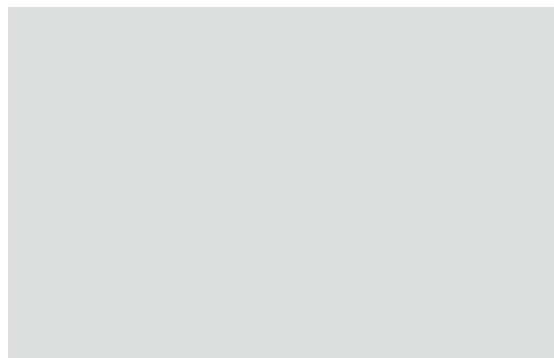
自治的諸活動と生活指導

レポートタイトル	リポーター名	分会名
生徒の自主性を高める手帳指導	堤 麻理子	大分雄城台
連携・教育相談+特別支援教育	萩原 明子	佐伯豊南
自己肯定感を高める委員会活動	吉良 美鈴	佐伯豊南

「熱く子どもたちのために議論する」

中川 由紀子(高田分会)

リポーター3人、運営委員2人(内1人はリポーター兼任)の計4人で気軽に話をしました。内容は、学習用手帳の導入による子どもの変化、課題を抱える子どものを支援する組織・体制づくり、保健委員会が制作し、文化祭で発表したLGBTのビデオ劇についての3本でした。とりくんでみたいと思うものがたくさんありましたが、中でも一番強く思ったのは、手帳の活用でした。私自身も手帳の活用が得意でなく、子どもへの指導もできない状態ですが、具体的なとりくみが示され、「やってみよう」という気持ちが出てきました。



第13分科会

人権教育

レポートタイトル	リポーター名	分会名
朝の人権学習を担当して	清原 宏明	宇佐産業科学
Over the bridge「橋」を越えて」 ～「アート」で拓く、「アート」でつなぐ～	糸永 伸哉	宇佐支援
全外教の還流報告	木部 武志	大分雄城台
自らを語る	甲斐 孝	由 布
「人権を中心に据えた学年経営」って	時枝 武敏	由 布
子どもたちの心に届ける人権学習	時枝 武敏	由 布
ジグソー法を用いた人権教育の報告	浅倉 薫	竹 田



「学ぶことは変わることに」

時枝 武敏 (由布分会)

レポート7本に対して、参加者全員で熱心な討議がなされました。今年はいじめて人権教育の担当になった方、はじめてのクラス担任として、子どもたちとどう向き合えばいいのか、自身を見つめながら参加され、そのとりくみを報告された方。学校の中での人権の視点について、自身の経験から思いを出される方などなど、それぞれにとって、大きな学びとなった今年の分科会でした。全員が参加して良かったと思える会になり、最後に参加者全員で写真を撮って会を閉じました。

第14分科会

障害児教育

レポートタイトル	リポーター名	分会名
別府支援学校寄宿舎の現状と課題	大野 祥子	別府支援
学習内容の理解を深めるICT機器の活用 ～すべての職員がICT機器を使える職場をめざして～	大石 恵子	ろ う
Aさんとの関わりから見えてきたもの	大野 清子	由 布
自立活動でのとりくみを通して学んだこと	伏田 恵美	大分支援
先生が届ける学校	野上恵美子	大分支援
大分県第三次特別支援教育推進計画から見えてくる課題	濱田真一郎	障害児学校部



「教研の大切さを改めて感じる事ができました」

堀田 文雄 (新生支援分会)

準備の段階から、お互いの自己紹介をし、机を並べたり、掲示物を張ったりして、それぞれができることを、コミュニケーションをとりながら、温かい雰囲気が始まりました。レポートはどれも興味深いものでした。ある学校では、障害をもつ子どもの支援の苦労やその成長に期待する場面があったり、自立において「自分の気持ちを伝えること」の実践を、教職員の枠を取り払って、お互いにぶつけ合う姿があったりしました。それぞれの子どもたちとのかかわりの中での苦労も感じましたが、微笑ましくも感じられました。また、訪問教育のことやICTの活用、そして第3次特別支援教育推進計画における寄宿舎のことなど、情報共有できたことで教研の大切さを改めて感じる事ができました。



第16分科会**両性の自立と平等をめざす教育**

レポートタイトル	リポーター名	分会名
みんなグラデーション	和田 佐栄	中 津 東
社会人になるあなた方へ	栗林 久美	別 府 翔 青
巣立ち講座	竹本 悠人 中西 智彦 後藤 恵美	佐 伯 豊 南

**「いろんなことを『やめてみた』」**

梶原 治子 (中津東分会)

全国教研の還流報告と3本のレポート、それぞれの発表の中に社会に出ていく子どもたちへ伝えていかなければならない、伝えたいという熱い思いがありました。男性だから女性だからというようには分けられない、社会もそうであるように、個人もその時によっていろんな色があるというのが共通のテーマでした。とても和やかな雰囲気、ざっくばらんに意見や思いを言い合える会で、終了後はみんなすっきりした気持ちになりました。最後は言葉「やめてみた」で、笑顔で終了となりました。

第17分科会**環境教育****第24分科会****総合学習**

レポートタイトル	リポーター名	分会名
防災教育のすすめ	坪田 健二 田北 俊郎	大 分 商 業
高田高校ならではの「地域学」の模索	中山 博子	高 田
総合的な探求?	井上 秀行	宇 佐

**「地域の特性を生かす」**

柴田由美子 (佐伯鶴城分会)

2つの分科会合同ではあったものの「地域の特性を生かした活動」という点に特化して議論が進みました。終始和やかな雰囲気、質問や意見も出され、活発な交流が行われました。少子高齢化の進む地域の中で、高校が果たすべき役割や地域との協力で成り立つことなど、多くの課題の中で、高校生や地域の可能性を感じる時間となりました。「積極的に関わっていくこと」の大切さも「積極的に関わらないこと」の大切さも感じる時間でした。

第18分科会**平和教育**

レポートタイトル	リポーター名	分会名
足元から考えてみた本校の平和教育 -「宇佐市平和ミュージアム」開設準備応援活動を通じて-	佐藤新太郎	宇佐産業科学
高校生1万人署名活動 県内の取り組み	佐藤 立也	日 出 総 合
生徒主催の学習会のとらぐみ	木部 武志	大分雄城台
日田林工の平和教育	長尾 秀之	日 田 林 工

**「平和学習を頭から考えてみた」**

長尾 秀之 (日田林工分会)

レポート4本、参加者5人ではあったが、非常に有意義な分科会でした。木部さんの平和についての学習会を生徒会で立ち上げたというレポートには「すごい」と思いました。多忙を言い訳に分会の中でとり

くめていない平和学習を、こういう形ならば私たちも実施できるのでは、とヒントになった。佐藤(立)さんのレポートでは、「高校生1万人署名」とりくんでいることは知っていましたが、その中心に関わっていくとする姿勢に頭が下がりました。佐藤(新)さんの報告は、本当に素晴らしいものでした。課題研究や文化祭の中で、そして地域と連携した平和学習を実践している佐藤さんの熱い思いに感動しました。私のレポートは反省すべき点ばかり…。まだまだ高教組は元気で、信念もあり、誇らしいと思える分科会でした。

第19分科会

情報化社会と教育・文化活動

レポートタイトル	リポーター名	分会名
学校司書の事務室兼務に関する問題と対策について	深藏 剛	中津北
iPADの活用	二色 隆信	宇佐
教科「情報」×「学校図書館」×「NIE」	畑野 新司	杵築
学校司書配置の現状と課題について	小野 陽子	日出総合
大工生のスマホ状況	貴田 祐二	大分工業
読書の教育力を見つめ直す	時枝 武敏	由布
支援学校の図書館を考える	後藤 由美	もとう



「学校司書の現実と課題」

畑野 新司(別府翔青分会)

その学校に何が必要か見極める。それが朝読書であったり、子どもの居場所としての図書館であったり、授業支援であったりします。今、臨時学校司書が事務室で働かなければならないという現状があり、断れば次年度の採用の保障がないのではという不安があります。「もっと子どもたちのために」という学校司書の気持ちを大切にしなければならぬと改めて思いました。もっと多くの人に学校司書の現状と課題が伝わってほしい。毎年参加して、元気をもらい、明日からがんばってこうという言葉が印象的でした。

第6分科会

情報教育

第20分科会

選抜制度と進路保障

第21分科会

カリキュラムづくりと評価・高校教育改革

レポートタイトル	リポーター名	分会名
由布高の進路保障	大島 崇志	由布
「新テスト初学年」指導暗中模索	高木 匠	日田
進路保障に向けた「特別の教育課程」を考える	高橋 徹弥	日出支援
新学力テストにおける情報の課題	木部 武志	大分雄城台



「進路保障のあり方と教育の市場化について」

安部 美保(中津東分会)

濱田眞一郎さん(新生支援)からの全国教研の還流報告では、子どもたちの「教育を受ける権利」が様々な形で侵害されている現状があり、今後様々な背景や事情を抱える子どもたちにどういった教育を保障していくかが課題です。大島さんのレポートでは、由布高校の現状とキャリア教育のあり方、また中高一貫の難しさが報告されました。高木さんからは、新テストの「色々決まっていない」ままに「見切り発車」で進められている現状と多くの問題点が報告され、また本来教育とは、入試に沿って行われるだけのものではなく、様々な「ふくらみ」を持って行われるべきものであるのに、益々その「ふくらみ」が痩せ細ってきている現状です。高橋さんからは、子どもの実態に合わせた支援学校の教育課程の改善に至るまでの経緯と成果の報告があり、中高連携の必要性が今後更に求められると考えさせられました。木部さんの、新学力テストに「情報」が組み入れられることの事実がしられていないことの危機感が伝えられました。

第23分科会

教育条件整備の運動

レポートタイトル	リポーター名	分会名
奨学金について考えてみました。	中野 幸弘	中 津 北
育児休業取得促進に向けて	東野 望卓 安部	由 布
学校での救急救命体制づくりについて ～バイスタンダーって知っていますか～	佐藤 由美	日 田
HPV子宮けいがんワクチン訴訟支援に参加して	山崎 兼雄	佐 伯 支 援
「養護教諭部の火を絶やしてはならない! ～組織拡大プロジェクト遂行の結果、得たものは～」	小川 宏子	養 護 教 諭 部



「様々な課題があることを共通認識」

薬師寺 志保(別府支援分会)

5本レポートに13人の参加者で、白熱した討論がなされました。奨学金については、担当者の意識や、本当に必要とする子どものもとに届くのかという課題が出されました。その他、校内で緊急体制を整える必要性や育児休業・育児時間について、また、養護教諭部の組織化拡大プロジェクト等々、教育条件整備に関する様々な課題があることを共通認識しました。最後に、山崎さんの薬害訴訟に関わられている話の中で裁判支援に誘われました。皆さん一緒に応援しましょう。

第25分科会

働く青年の教育

レポートタイトル	リポーター名	分会名
夜のキャッチボール	横山新太郎	中津東定時制
ともに歩む2018	中津東定分会	中津東定時制
大工定時制に於ける各種活動のコンヴァージョン(変遷)	波多野恭行	大 分 工 業 定 時 制
爽風館高生の学校での過ごし方	土谷 充章	爽風館定時制



「時間をかけて粘り強く向き合おう」

山野 寿美(日田定時制)

定時制で学ぶ生徒への「眼差し」を問う事例について多くの意見が出ました。教室で、給食の時間や休み時間に、時に荒れ、官女をぶつけてくる生徒がいます。生徒が抱えるツラさや背景から生じる荒れの原因を考えずに「問題行動をする生徒」とした排除しようとする教員。データや医師による診断だけで「あの生徒の能力はここまで」と決めつける教員もいます。日々接して、話して、関わる中で、それ以上の可能性を見出せることもあるのに諦めている。定時制の現場に危機を感じながらも「粘り強く、愛をもって、ともに寄り添い歩んでいく」ことが大切ということを訴えるレポートが多くありました。「失敗しながら学んでいく」ことが許される場ということを皆が共有し、生徒と向き合っていける「定時制」であってほしいと強く感じました。



第68次全国教研参加リポート、リポーター名

分科会名	分会名	リポーター名	タイトル
日本語教育	由布	新川 恭慈	現代文における映画理解の実践
職業教育	大分工業	石田 義徳	生徒たちの喜びや楽しさが表現できるものづくり教育の実践
自治的諸活動と生活指導	佐伯豊南	吉良 美鈴	セルフエスティームを高める委員会活動～LGBTのビデオ劇をとおして
人権教育	由布	時枝 武敏	「人権の視点を中心に据えた学年経営」って
両性の自立と平等をめざす教育	佐伯豊南	後藤 恵美	「繁殖活動・家父長制復活推進教材」に抗って生きる力を身につけさせる巣立ち講座
子ども・教職員の安全・健康と環境・食教育	日田	佐藤 由美	高校での緊急時対応体制をつくる
情報化社会と教育・文化活動	宇佐産業科学	佐藤 新太郎	「足元」から考えてみた本校の平和教育
高等教育・進路保障と労働教育	日出支援	高橋 徹弥	進路保障に向けた特別支援学級の『特別の教育課程』を考える

特別分科会 平和学習「佐伯戦跡フィールドワーク」

今年度の県教研特別分科会は、県教研の教科別分科会を1日目に開催した関係で、別日の12月16日(日)に開催しました。佐伯市内の戦跡をめぐるフィールドワークを中心に戦争体験者の方の講演という内容で、組合員13人の参加がありました。

行き帰りのバスの中および戦跡巡りでは、賀来宏基さん(日田分会)に、青年部長時代、青年部常任委員と調査した県内の戦跡について、当時の話も交えながら説明をしていただきました。今なお起こる多くの戦争、紛争の根幹には利益追求を優先する大国の姿が見え隠れしていますが、佐伯海軍航空隊にしても佐伯の経済発展のため誘致したと言われていています。爆撃で市内最大の死傷者を出した佐伯鶴城高校前の旧NTT跡地、佐伯海軍航空隊、防備隊の関連施設、掩体壕、長島山や濃霞山の裾野にある弾薬庫、地下倉庫跡など、雨天のため車内からではありましたが見学しました。

講演では、佐伯市内にお住まいで89歳の高齢でありながら、多くの学校で戦争体験を話してこられた武田剛さんからお話を伺いました。佐伯湾に停泊していた真珠湾攻撃に向かう連合艦隊の艦船の目撃談、米軍による爆撃で多くの死傷者が出た防空壕での惨劇(ご自身も亡くなられた方々の無残な姿になった遺体を寺に運ばれたとのことでした)、ご自身も米軍機グラマンによる攻撃を受け左耳に被害を受けた話(その際の機銃の弾丸を見せていただきました)、サイパンで戦死されたお兄さんそしてその報を聞いた両親の悲しみ、ピカソの絵画「ゲルニカ」でも有名なドイツ軍の無差別攻撃のように中国の重慶を無差別爆撃した佐伯海軍航空隊、当時の海軍航空隊への市民の熱狂ぶりを思い起こすと胸が苦しくなると同時に、このことを知らない人が多くいることに無力感を覚える、米軍との戦力の違いを開戦派は隠し戦争に邁進していったことなど話していただきました。

- 8:30 教育会館集合・出発
- 10:00 開会行事(10)
- 10:10 講演(75) 講師 武田 剛さん
- 11:40 佐伯市平和祈念館「やわらぎ」見学(60)
昼食
- 13:40 佐伯市内戦跡フィールドワーク(150)
- 17:30 教育会館到着・解散



国が国民を守ることはない、国民を犠牲にして国を守る、自衛隊が国民を守っているのではない、憲法9条があり、平和を守ろうとする国民の気持ちが自衛隊を守っているとされたのが印象的でした。

～ 参加者からの感想 ～

○ずっと住んでいる大分県で何が起こったのか全く知らなかったんだと恥ずかしく思いました。戦争を経験された方からの話をじっくり聞いたことは今までありませんでした。これから戦争を経験された方の数はどんどん減っていきます。貴重な話を聞くことができ、本当に勉強になりました。これからも学び続けなければいけないと思いました。ありがとうございました。

○頭で考えるだけでなく、それを実行するまでが肝要だ。佐伯市に海軍航空隊を誘致することに反対した先哲、矢野龍溪は勧誘に前のめりな佐伯市長(当時は町長)に次のような手紙を書いた。

「海軍港の件は断念した方が良くと思います。世界平和の気運が熟し、国際連盟も成立、次は軍備の縮小となるでしょうから…(後略)。」

あの森鷗外は彼のことを「龍溪先生は行う人なり。思う人にあらず」と評していたという。なるほどすばらしい実行力である。その後、佐伯市は被害を受けた。目先の利益に惑わされれば判断を誤ることが多いが、矢野は違った。私もこのような判断力と実行力を兼ねそろえた人を育てていきたいと思う。

○御年89歳の武田さんが90分間立ったまま(!)、70年以上前の佐伯市での爆撃の激烈な体験を昨日のこのように話してください。時折感情がこみ上げてこられるのか、しばし黙ったり空を仰いだりしながら。その間が私たちに無言の言葉となって迫ってくる。武田さんは「私の体験した事実を伝えることが亡くなった兄やいとこ達の弔いになると思って話している」とおっしゃった。心に突き刺さった武田さんの言葉を肝に銘じようと思う。

○わが家では「平和学習の旅」と題して、家族で県内県外の戦争に関するところを訪れています。佐伯は出身でもあり勤務したところですが、初めてのところも多く学習を積むことができました。なかでも武田剛さんのお話は、生の声、表情、語る調子などで引きつけられました。「愚かなことを繰り返すのか」「何で殺し合いをしたのだろうか誰からさせられたのだろうか」「国民の平和を守る声が自衛隊員の命の守る」が強く心に残りました。

○歌三首

●曇天に 天井食らふ同志(とも)といて どんでん返しの 戦禍を思ふ

(当日は、時にそばふる曇天でした。昼食に立ち寄った海鮮食堂で天井を注文する姿に言葉遊びをするならば、戦況報道不信のどんでん返しよ。)

●海ゆかば 眼下に見ゆる 白波の 風に乗りたる 鳥の行方よ

(皆が歌唱した海ゆかば。今、砲台の眼下に見える鳥の飛翔に、特攻機を重ねてしまう。平和帰着は夢物語か。いや声を上げねば。)

●丸のつく 弾薬倉庫の 壁に聞く 厚さ30センチの闇に

(戦中のたずまいを残す弾薬倉庫には、ペンキで塗られた丸印がそのまま残っていた。その壁の厚さに驚嘆すると同時に、胸を痛める。)



参議院選挙全国比例区立候補予定者
「みずおか俊一」来県

12月4日(火) 全労済ソレイユ

7月実施予定の第25回参議院議員通常選挙に全国比例区から立候補予定の「みずおか俊一」が来県し、高教組の支部・単組・専門部ならびに各分会の代表者を前に、参議院選挙必勝にむけての決意表明を行いました。



決意を述べる「みずおか俊一」



参加者全員で必勝ガンバロウ